



いちばんいいのに○をつけて、
おかしいのに×をつけよう。



クッキーを おいしい たべた。



たべた クッキーを おいしい。



おいしい クッキーを たべた。



しんるいのおばさんに あった。



あった しんるいのおばさんに。



しんるいのおばさんに あった。



よんだ ともだちを たんじょうびに。



たんじょうびに ともだちを よんだ。



ともだちを よんだ たんじょうびに。



ちいさな バスに のった。



ちいさな のった バスに。



のった バスに ちいさな。



文の語順
を格・に格のある文
6534 ©Adeamland

1) 声を出してしっかりと読ませる。
2) 例に倣って各文を評価し、□に○か×をつけさせる。
ふつうの言い方に○、ふつうでない言い方に×とする
のがシンプルだが、子どもに理解力があれば例置の
語順として成り立つものを△にするのもよい。

a) 日本語の論理は、助詞と語順の2つの要素が働きあつ
て決まる。子どもはその規則性を無意識に身に付け
つつあるが、意識することは少ない。課題として意識
化を図ることは論理的思考性を育てる。

特定用具: 不要

Date:

